

第35回 日本教育大学協会
全国特別支援教育研究部門合同研究集会

2次案内（最終）

金沢大会

2026年

12月4日(金) 12月5日(土)

同時開催
金沢大学人間社会学域学校教育学類
附属特別支援学校令和8年度教育研究会

主催：日本教育大学協会全国特別支援教育研究部門
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校
後援：文部科学省 石川県教育委員会 金沢市教育委員会 石川県高等学校長会
石川県特別支援学校長会 金沢大学New Platform
日本教育公務員弘済会石川支部 北國新聞社 北陸中日新聞社（予定含む）

大会テーマ

豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手
となる志高い児童生徒の育成を目指して

1日目 12月4日(金)

会場：金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校

8:30	9:05	10:20	10:40	11:30	13:00	14:30	16:00
受付	日程説明	授業公開	移動	開会式 全体会	昼食	研究協議 ポスター発表	全国分科会
							諸連絡

【レセプション】 会場：KKRホテル金沢

17:30	18:00	20:00
受付	レセプション ※講話・記念演奏を含む	解散

2日目 12月5日(土)

会場：金沢市アートホール

9:00	9:30	10:20	10:30	12:00	12:10
受付	講演①	講演②	閉会式		

資料代 ￥1,500円

県内一般参加者・大学生・大学院生無料

昼食

一日目の昼食を希望される場合は申し込みの際に「昼食」チケットを選択し、500円をお支払いください。
※先着順に上限80食となります。

問い合わせ

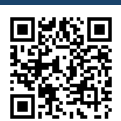
金沢大学人間社会学域学校教育学類
附属特別支援学校
〒920-0933 石川県金沢市東兼六町2-10
TEL 076-263-5552 FAX 076-264-2275

本大会申込に関する問い合わせ先

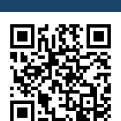
Email chiaki-t@staff.kanazawa-u.ac.jp
副校長 鶴尾 千亜紀

申込

11月6日（金）までに、下記の二次元コード、もしくは本校ホームページの「研究・お知らせ」にあります申込フォームからPeatixへアクセスし、申し込んでください。



本校ホームページ
<http://partner.ed.kanazawa-u.ac.jp/futoku/>



【Peatix】申込フォーム
<https://kyodaikyo35-kanazawa.peatix.com>
締め切り 11月6日（金） 15:00

ごあいさつ

第35回日本教育大学協会全国特別支援教育研究部門合同研究集会及び金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校令和8年度教育研究会を、金沢の地で開催できることを大変うれしく思います。

本研究集会では、「豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる志高い児童生徒の育成を目指して」をテーマとして掲げ、準備をして参りました。研究集会では、1日目は金沢大学附属特別支援学校において、附属特別支援学校の取り組みの発表や種々のテーマの全国分科会を企画しています。2日目は金沢市アートホールにおいて、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官の加藤宏昭先生、植草学園大学副学長の野澤和弘先生の講演を予定しています。

教員免許法や学習指導要領の改訂など、特別支援教育をめぐる情勢も大きく変わってきている中、これからの子どもたちの豊かな人生のために、本研究集会が、私たちができることを共に考えていく機会になればと考えております。

金沢は加賀百万石の歴史と文化を今に伝える城下町であり、伝統と創造が調和するまちです。兼六園やひがし茶屋街をはじめとする歴史的景観に加え、伝統工芸や豊かな食文化など、多彩な魅力にあふれています。

本研究集会が、参加者の皆様にとって最新の研究成果を共有し、活発な議論と新たな交流を深める機会となるとともに、金沢の文化や風土にも触れていただける場になれば幸いです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第35回日本教育大学協会全国特別支援教育研究部門合同研究集会
実行委員長 武居 渡（金沢大学人間社会研究域学校教育系教授）

交通案内



金沢大学人間社会学域学校教育学類附属特別支援学校

路線バス

JR金沢駅兼六口前、6番または7番乗り場より乗車（柳橋行きを除く）「兼六園下・金沢城」バス停で下車、徒歩で約5分。
＊バス時刻は「北陸鉄道」のホームページで検索することができます。

自家用車

大会当日は多数の来場者が見込まれるため、自家用車でのご来校はお断りいたします。自家用車でお越しの場合は兼六駐車場をご利用ください(駐車料金は参加者負担となります)。

KKRホテル金沢

920-0912 金沢市大手町2-32
TEL 076-264-3261

本校から徒歩15分程度

金沢市アートホール

920-0853 金沢市本町2丁目14-15-1
TEL 076-224-1660

金沢駅から徒歩5分程度

参加申込をされた方へ

・参加された方につきましては「オンデマンド配信」（一部全国分科会を除く）視聴のURLを、12月11日（金）を目途にメールで送付する予定です。
※12月11日（金）までに届かない場合は、担当までご連絡ください。
・視聴期間は1月15日（金）までとなります。



【指定・公開授業および研究協議】

指定・公開授業 9:05～10:20

研究協議・ポスター発表 13:00～14:20

指定・公開授業では、3学部

の授業実践を自由にご参観いただきます。

研究協議・ポスター発表では、各学部

の実践事例について参加者のみなさんと意見交換を行いたいと考えています。

◇指定授業

テーマ【教科等】

小学部

新しい物・人・社会・自然とのかかわりを通して、探究的な学びの姿を引き出す【生活単元学習】

授業の要旨

学部で設定した探究的な学びの姿「物事に気づき、『好き』『面白い』『やってみたい』などの気持ちを実感し、他者に伝えたり、自ら考えて行動したりする」の実現を目指す。そのため、障害特性を踏まえながら、探究の芽生えを促すことができるよう、新しいものとの関わりを軸に単元を展開する。また、児童の探究的な学びの姿を引き出すために、教師の適切な関わり方についてエピソード記述の手法を用いて検討し、指導改善につなげる。

テーマ【教科等】

中学部

地域や社会に関わる探究課題の解決を通して育む探究の資質・能力～SDGsの視点をもって環境問題に取り組む～【総合的な学習の時間】

授業の要旨

「SDGsの視点をもって環境問題に取り組む（特にゴミの発生源や再利用）」ことを探究課題として設定している。生徒たちはこれまで、海岸の清掃活動やゴミの分類・分析を行い、実際の体験を通して問題の実態を捉えながら学習を進めてきた。本単元では、その学びをさらに発展させ、海外から流れ着くゴミに着目し、回収したゴミの表示や特徴を手掛かりに本や生成AIを活用して、どの国から来た漂着ゴミかを調査し、その分布を地図上に可視化する活動を行う。

テーマ【教科等】

高等部

地域と協働して子どもの主体性を育てる総合的な探究の時間の授業づくり～避難所生活を想定した実践的防災学習を通して～【総合的な探究の時間】

授業の要旨

「避難所生活の中で、若者として自分たちにできることは何か」を探究課題に設定し学習を進めている。本単元では、12月末の模擬避難所開設に向け、グループごとに課題を設定し、それぞれの課題に沿って探究のプロセスを繰り返しながら学習を進める。その際、本や情報技術を活用することで「情報」の活用能力の育成を図る。本学習を通して、生徒が「地域と協働した防災」という課題に向きあい、それぞれが自らの役割を意識しながら主体的に社会参画しようとする意識が育まれることを期待する。

◇全国分科会

【分科会】 テーマ	【第1分科会】 特別支援教育の充実	【第2分科会】 インクルーシブな学校・社会の実現	【第3分科会】 ウェルビーイングな学校・教育の実現	【第4分科会 金沢大学・富山大学共同企画】 大学の附属活用と附属の大学活用	【第5分科会 研究部門企画】 特別支援学校教諭の免許制度の方向性 ー特別支援教育作業部会の検討を踏まえてー
話題提供者	① 斎藤 瞭汰 氏 (新潟大学附属特別支援学校教諭) ② 角 あすか 氏 (京都教育大学附属特別支援学校副校長)	① 戸谷 健史 氏 (信州大学准教授) ② 福田 晃 氏 (金沢大学附属コラボレーション推進室長)	① 熊南 真人 氏 (富山大学教育学部附属特別支援学校教諭) ② 斉藤 雅士 氏 (福井大学教育学部附属特別支援学校教諭)	① 吉村 優子 氏 (金沢大学教授) ② 和田 充紀 氏 (富山大学教授) ③ 宮崎 仁美 氏 (金沢大学人間社会学域学校教育学類 附属特別支援学校教諭) ④ 西井 奈緒 氏 (富山大学教育学部附属特別支援学校教諭)	① 國分 充 氏 (前東京学芸大学長) 【オンデマンド参加】 ② 武居 渡 氏 (金沢大学教授)
指定討論者	丹野 哲也 氏 (国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員)	福本 徹 氏 (国立教育政策研究所総括研究官)	菊地 一文 氏 (弘前大学教授)	【司会・趣旨説明】 吉村 優子 氏 (金沢大学教授)	澤 隆史 氏 (東京学芸大学教授) 平田 正吾 氏 (東京学芸大学准教授)

1

「学習指導要領改訂の方向性を踏まえた
これからの特別支援教育」

文部科学省初等中等教育局特別
支援教育課特別支援教育調査官

加藤 宏昭 氏

講演概要

改訂論議を貫く3つの柱である「主体的・対話的で深い学びの実装」「多様性の包摂」「実現可能性の確保」に基づき、令和7年10月から実施された特別支援教育ワーキンググループの取りまとめ内容を踏まえ、多様な学びの場におけるこれからの特別支援教育の在り方について説明し、共通理解を図る。

2

「障害のある子の人権と教育」

講演概要

障害者の権利擁護は2010年代以降に整えられてきた。教育を受ける権利はインクルーシブ教育の進展に伴い充実してきてはいるが課題も多い。近年は発達障害の疑われる児童生徒が急増している。背景には家庭や保育園、小学校などでの養育機能の低下や合理的配慮の不足などが指摘されている。この点を中心に考え、これからの特別支援教育の更なる充実を期待したい。

植草学園大学副学長

野澤 和弘 氏